

Vol.117

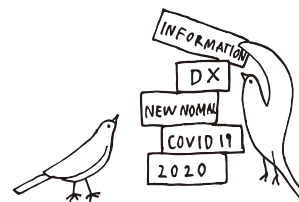
CONTENTS

- 【コラム】教育における「情報」とこれから…稲葉 利江子
 【解説】高校共通教科「情報」にも活用できるファシリテーションの技術…三田地 真実



COLUMN

教育における「情報」とこれから



2020年度は、教育における「情報」に注目が集まった1年だったのではないだろうか。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、大学では、いまだかつてない規模で遠隔授業が実施され、教育の情報化が加速した。これまでも「遠隔授業」は2001年に文部科学省告示にて「メディアを利用して行う授業」として制度化されており、制約はあるものの正規の授業とされていた。情報技術の発展とともに、テレビ会議システムを利用した授業から、e-ラーニングやオンライン授業なども「遠隔授業」とされてきたが、これまでの^{しつかり}悉皆調査の結果を見てもその導入が進まなかったのは明らかである。その状況が、コロナ禍で大きく変化した。授業のオンライン化が進むとともに、2020年8月の文部科学大臣の「大学もオンラインと対面併用を」という発言により、各大学はオンラインと対面を併用したハイブリッド授業など多様な実践が模索され、今に至っている。これまで高等教育機関のICT利活用調査を行ってきた立場からすると、否応なくオンライン授業をせざるを得なくなったこれまで食わず嫌いだっただ方が、ICT活用のメリットをどう感じたのか、そして、対面授業に戻った際に、ICT活用の経験がどう活かされるのか、ということに興味がある。そして、さまざまな分野において「DX」が注目されているが、教室でも、今回の経験が、単にアナログからデジタルへの置き換わりではなく、ニューノーマル時代の学習者を中心とした教育の実現や学びの質の向上につながっていくことを期待したい。

また、もう1つは「情報入試」である。2020年10月に大学入試センターより、関係各所に出題教科・科目についての意見照会が行われ、「情報」の提案がなされた。2018年6月に閣議決定された「未来投資戦略2018—『Society 5.0』『データ駆動型社会』への変革—」においても、「大学入学共通テストにおいて、国語、数学、英語のような基礎的な科目として必修科目『情報I』を追加する」とされている。本会においては、情報入試委員会で長年議論が行われ、文部科学省等に対しても要望をあげてきただけに、うれしいニュースであった。どのような専門分野を学ぶ上でも「情報」の知識や活用力が求められる現在において、国語や数学、英語とともに基礎的な科目として「情報」が認知されたことは大きい。今後、高校だけではなく大学にも受け入れられるかなどの課題は残っているが、教育現場において実質的に「情報教育」が行われる第一歩となったことは間違いない。

これからの数年が教育における「情報」の活用や学びの在り方のターニングポイントとなるであろう。「情報技術」は単に導入すればいいというわけではない。その導入により、どう根本的な変革を行えるかが重要である。いろんな意味での変革が起こることを期待するとともに、その変革を担っていききたいと思う。



稲葉利江子 (津田塾大学) (正会員) inaba@tsuda.ac.jp

津田塾大学学芸学部情報科学科 准教授。博士(理学)。異文化コミュニケーション、高等教育におけるICT利活用データの分析に関する研究に従事。本会では、情報入試委員会、セミナー推進委員会などの委員として活動。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno